

## 設 立 趣 旨 書

### 1 趣 旨 (設立背景と目的)

#### (1) 社会的背景と課題

現代社会は、急速な情報技術の発達と価値観の多様化が進む一方で、人々の間に様々な「孤立」や「分断」を生み出しています。高齢化の進展による健康寿命の延伸、多様な事情による不登校児童生徒の増加、そして障がいの有無や年齢による社会参加の機会の格差が顕著な社会課題となっています。

- ① **多世代、多属性の交流機会の不足**：世代や属性を超えた人々が、互いを尊重し、共に活動できる「場」が不足している。
- ② **子どもの居場所と学習機会の格差**：学校へ行くことが難しい子どもたちにとって、安心できる居場所や、社会との接点を維持し、自己肯定感を育む支援が圧倒的に不足している。
- ③ **生涯を通じた健康と生きがいの支援の不足**：体力や身体的制約に関わらず、誰もが楽しめる活動（スポーツ・文化）へのアクセスが限定的である。

これらの課題は、個人の生きがいを奪うだけではなく、包摂的（インクルーシブ）で持続可能な社会の実現を阻む要因となっています。

#### (2) ユニバーサルアクションと多角的支援の推進

当法人は、ユニバーサルスポーツ（年齢、性別、障がいの有無、垣根を越えて誰もが一緒に楽しめるスポーツ）、健康麻雀（飲酒・喫煙・賭博をしない「健全」な麻雀、健全な脳の活性化と交流を促す活動）、eスポーツ（デジタルを通じた新たなコミュニケーションと競技機会）を、「身体的・認知的・社会的な障壁を超えて、誰もが参加し自己実現できる活動」として「ユニバーサルアクション」と位置付けます。

これらのアクションは、単なる余暇活動に留まらず、

- ① **健康の維持・増進**（身体活動、認知機能の活性化）
- ② **社会性の向上**（多世代・多属性との交流、協調性の涵養）
- ③ **生きがい・自己肯定感の創出**（目標設定、達成感の獲得）

といった多面的な効果をもたらし、包摂的（インクルーシブ）な社会の実現に不可欠であると考えます。

さらに、これらの活動の場を、学校に行くのが難しい子どもたちやその保護者に対して開かれた、安心できる「交流の機会」として提供します。これにより、身体・健康、認知機能の維持、社会性の向上、そして自己肯定感の回復といった多面的な支援を一体的に行うことが可能となります。

### (3) 設立の目的

上記の背景と課題に基づき、特定非営利活動法人（NPO 法人）を設立し、ユニバーサルスポーツ、健康麻雀、e スポーツを核とした「ユニバーサルアクション」を体系的かつ継続的に推進するためのプラットフォームを構築します。これにより、すべての人が年齢、性別、身体的能力などに関わらず、社会参加と自己実現の機会を得られる「生き活きとした共生社会」の実現に寄与することを目的とします。

## 2 具体的な活動内容（事業の概要）

当法人は、上記目的を達成するため、主に以下の特定非営利活動に係る事業を行います。

### (1) ユニバーサルアクションの普及啓発事業

- ・ユニバーサルスポーツ、健康麻雀、e スポーツの体験会・講習会の企画及び実施。

### (2) イベント・大会の企画運営事業

- ・年齢、性別、障がいの有無などを問わない多世代・多属性参加型の競技イベントや交流イベントの開催。
- ・企業や自治体と連携した地域コミュニティ活性化のためのイベント企画・支援。

### (3) 指導者・ファシリテーターの養成事業

- ・ユニバーサルアクションを安全かつ効果的に推進するための指導者・ファシリテーター・ボランティアなどをイベントや大会を通じて養成する。

### (4) 子ども・子育て支援事業

- ・ユニバーサルアクション（特に e スポーツや健康麻雀）イベントを「交流の機会」として子どもたちに提供し、ユニバーサルアクションを通じた子どもの社会性、自己肯定感、非認知能力の育成支援。
- ・講師を招いて保護者対象の勉強会を実施する。情報交換や保護者同士の交流の場を設け保護者への精神的、実務的支援を行う。

## 3 申請に至るまでの経過

2022 年より任意団体「No Limit Oita」としてパラスポーツ普及活動を行う。

（主な活動実績）

- ・2022 年より東京の NPO 法人「ギソクの図書館」と連携し、大分市協力のもと「ギソクの図書館大分」を市営陸上競技場内に展開し義足ランナーの発掘・育成事業を行う。現在 3 年目で 5 名の義足ランナーを発掘・サポートしている。
- ・2022 年より毎年 2 回大分トリニータのホームゲームの会場にて義足体験会を実施。
- ・2023 年大分県主催パラスポーツ発掘プロジェクト内にて義足体験ブース運営
- ・その他、ボッチャ、車いすレーサー、パラ投てきなどのイベントサポート

パラスポーツ普及活動を行う中で、対象である障がいのある方がスポーツを楽しむ傍ら、そのご家族さんや介助に来られてる方も一緒になって笑顔でスポーツを楽しむ姿を見て、お話を聞くうちに障がいのあるご本人は勿論、そのご家族さん達も一緒にスポーツをする事で精神的に明るく、上向いていることが多々あり、他に何かもっと気軽に障がいの垣根なく楽しめるスポーツはないのかと探した結果、ユニバーサルスポーツに出会う。

2025年1月：発起人（久多良木、松尾、丸田）による「ユニバーサルスポーツ」の活動の可能性について、調査・協議を開始。

2025年3月：調査・協議の結果、「ユニバーサルスポーツ」「健康麻雀」「eスポーツ」等を「身体的・認知的・社会的な障壁を超えて、誰もが参加し自己実現できる活動」として「ユニバーサルアクション」と位置付け、それらを主体とした活動方針の協議を開始。同時にユニバーサルスポーツのイベント実施に向けて準備を開始。

2025年4月：ユニバーサルスポーツである「ユニバーサルかけっこチャレンジ（UKC）」を軸としたイベントをNPO法人ギソクの図書館と連携し大分で10月に開催する事が決定。

2025年7月：大分出身のオリンピック、成迫健児氏が活動に賛同下さり、共に活動することになる。ユニバーサルアクションを基軸とした活動に、生き辛さを抱えた子どもやその保護者への支援活動を盛り込みさらに多面的な効果をもたらす活動になる。

2025年8月：ユニバーサルイベントの内容が、義足ランニングクリニック、ユニバーサルかけっこチャレンジ、オリンピック数人によるトークショーの三部構成になり予算が高額な為、当任意団体での主催は難しいとの結論から、ギソクの図書館に主催して頂く流れになる。当団体は大分での資金調達、スタッフ確保、広報の役割を担当する。

2025年10月上旬：大分県の立命館アジア太平洋大学を会場とし、ユニバーサルイベントを実施。かけっこには7歳～71歳の海外留学生含む45人（内13人が義足ユーザー）が参加。イベント全体では70名近くの参加をいただき大盛況のうちに幕を閉じた。

2025年10月中旬：上記のイベントや今後のユニバーサルアクションの活動を当団体主体で、継続的かつ多角的に展開し、社会的な信用力を高めるため、特定非営利活動法人格の取得を決議。

2025年10月下旬：設立趣旨、定款、役員構成などに関する発起人会を開催。

2025年12月：特定非営利活動法人設立総会を開催し、本主旨書及び定款案を承認。

#### 4 NPO 法人格の必要性

本法人の活動は、特定の層に限定されることなく、子どもから高齢者、健常者から障がい者まで、幅広い市民の利益に資するものです。特に、福祉、教育、健康増進といった複数の分野にまたがる活動を、継続的かつ安定的に実施するためには、高い公益性と透明性が求められます。

特定非営利活動法人格を取得することで、社会的な信用力が向上し、行政、福祉施設、教育機関、企業などとの連携が円滑化します。これにより活動資金の安定的確保（助成金、委託事業、寄付金）が可能となり、本主旨に賛同する多くの受益者に対し、公平かつ継続的にサービスを提供できる体制が整います。

令和7年12月21日

特定非営利活動法人 日本ユニバーサルアクション協会

設立代表者 久多良木 隆幸